

令和元年度事業報告書

当協会は、県内畜産農家の経営の安定に寄与し、本県の畜産振興を図るとともに、畜産や牧场景観を広く一般県民等に理解してもらうため、県立八ヶ岳牧場及びまきば公園の指定管理者として基本協定書に基づき同施設の業務管理を行うとともに事業目的の達成に努め、その事業実績は次のとおりである。

1) 八ヶ岳牧場管理受託業務

(1) 県有肉用繁殖牛の飼養、生産子牛の育成及び売却業務

県有肉用繁殖牛199頭を本場で繋養し、系統毎に選抜された優良な繁殖牛に対して計画交配を行い、これら母牛から産まれた優良子牛を育成し、県内の肉用牛振興地域の農協等へ繁殖又は肥育素牛として154頭を売却した。また、雌の一部を牧場に保留し繁殖牛の更新を図るとともに、繋養計画から除外した繁殖牛は、山梨食肉流通センターへ廃用出荷若しくは、妊娠経産牛として農協等に売却を行なった。

一方、家畜伝染病予防法に基づく県の定期衛生検査で、県有肉用繁殖牛に牛ヨーネ病の患畜が発見され、当該患畜8頭を法令殺するとともに、同居牛検査(県有牛全頭)により疑陽性となった16頭の育成子牛についても自主淘汰を行なった。牛舎消毒や生産子牛のPCR検査を定期的に行う等、保菌牛の摘発と蔓延防止対策に継続して取り組んだ。

[表1] 県有牛の飼養状況

区分 性別	動物(成牛)頭数(頭)									生産物(子牛・育成牛)頭数(頭)								合計	
	前年度より	生産物区分替	導入	廃用	売却	保管 転換	死亡	法令 殺	小計	前年度より	出生	動物へ 区分替	売却	廃用	保管 転換	死亡	自主 淘汰		小計
雌	199	27		-14	-2		-5	-2	203	94	83	-27	-65			-4	-11	70	273
雄																			
去勢										71	97		-87	-1		-8	-11	61	61
計	199	27		-14	-2		-5	-2	203	165	180	-27	-152	-1		-12	-22	131	334

[表2] 農協別売却頭数

(頭)

農協別売却頭数														
区分	梨北							笛吹		南アルプス市		山梨みらい	山梨県酪	合計
	小淵沢	高根	清里	穂坂	白州	明野	韮崎	八代	中道北	野々瀬	南湖			
去勢牛		9	12	15	5	2	16	9	7			12		87
育成雌牛		6	11	16	7	1	13	4	1			6		65
育成妊娠														
経産妊娠			1				1							2
計		15	24	31	12	3	30	13	8			18		154

(2) 農家家畜受託状況

夏期受託家畜は、天女山分場を中心に放牧管理(5/1～10/31)を、冬期受託家畜は、本場牛舎で飼養管理(11/1～4/30)を行い、農家等が保有する乳用牛、肉用牛の受託管理の状況は〔表3〕、〔表4〕のとおりで、肉用繁殖牛の受託頭数は増えている。継続して預託されている牛は翌年度への繰り越し処理を行った。

また、本場県有牛にヨーネ病が確認されたことから、預託牛への交差汚染を防止するため、冬期預託牛の受託頭数を減らすとともに、冬期預託牛管理エリア周囲にフェンスを設置し、出入口での消毒や同エリアの管理者専用の仮設事務所を設置するなど、ゾーニングによる衛生管理を行った。

[表3] 農家家畜受託状況

(頭)

		受託頭数			
		乳用牛	肉用牛	馬	合計
前年度より継続		196	47	0	243
本年度	入牧頭数	197	204	0	401
	退牧頭数	242	211	0	453
	死亡頭数	4	1	0	5
合計		147	39	0	186

[表4] 受託家畜の実頭数及び延べ頭数

(頭)

区分	乳用牛	肉用牛	馬	合計
受託実頭数	393	251	0	672
受託延頭数	79,485	37,432	0	116,917

また、受託期間中農家の希望に沿って、種付け月齢に到達した牛に人工授精及び受精卵移植

による種付けを行い、[表5]のとおりそのほとんどが受胎(妊娠)した。

[表5] 受託家畜の種付状況(AI:人工授精 ET:受精卵移植) (頭)

	種付頭数	AI 受胎頭数	ET 受胎頭数	合計受胎頭数	妊娠率
乳用牛	230	167	59	226	98.2%
肉用牛	142	135	1	136	95.7%
合計	372	302	60	362	97.3%

(3) 牧草地等の維持管理業務

本場並びに分場の牧草地に対し、[表6]のとおり計画的に肥料散布を行い、良質な牧草を生産するするとともに、冬期用貯蔵飼料(サイレージ)の生産状況は[表7]のとおりである。

貯蔵飼料のロールサイレージの生産は、春先の低温、梅雨期の長雨並びに連続した大型台風の襲来等異常気象の影響を大きく受け、前年対比88%(1,534ロール)であった。

また、牧草地内の雑草の防除や牧道の補修整備をはじめ、台風による倒木の撤去並びに車両・農機具等の点検整備を随時行い、草地並びに車両・農機具等の保全管理に努めた。

[表6] 肥料散布状況

肥料散布面積と施肥量				
区分		放牧地	採草地	合計
散布面積		249.8ha	73.4ha	323.4ha
施肥量	牧草地用複合肥料	51.3t	126.0t	177.3t
	粒状炭酸苦土石灰	60.0t	43.8t	103.8t
	計	111.3t	169.8t	281.1t

[表7] 牧草生産状況 (t)

牧草生産量(生草換算)					
区分	放牧地	採草地			合計
		サイレージ用	乾草用	計	
生産量	5,516	2,301	0	2,301	7,817

(4) 農家の巡回調査指導業務

八ヶ岳牧場への預託牛飼養農家及び当牧場からの売却牛飼養農家等の巡回調査を実施し、発育や繁殖状況等について調査し、飼養・繁殖管理技術に係る指導を行った。

[表8] 農協別農家巡回状況 (戸)

区分	梨北農協	県酪農協	笛吹農協	クレイン	山梨みらい	南アルプス	合計
戸数	乳牛	11	1		12		24
	肉牛	12		4	3	1	4

(5) 受精卵移植普及定着化業務

協会では、畜産酪農技術センター(受精卵供給メインセンター)に協力して、優良肉用牛からの受精卵採取のために必要な供卵牛(受精卵を採取する牛)を供給(前年残8頭・新規貸出4頭・返却7頭・次年へ5頭)するとともに、当場で繋養管理している優良雌牛(35頭)に過剰排卵処理(ホルモン投与)を行い供卵牛として提供するほか、受託管理している農家預託牛に受精卵移植を行なうなど、サブセンターとしての役割を果たした。

(6) 家畜糞尿堆肥化処理業務

まきばの郷整備事業により牧場内に整備された家畜糞尿処理施設を活用し、牧場・馬事振興センター及び北杜市小淵沢町内から排出される家畜糞尿の処理 [表9]を行うとともに、牧場の堆肥製品については、峡東、峡中地域の果樹農家を始め、峡北地域の野菜や米作農家等に販売を行なった。

[表9] 家畜糞尿堆肥の生産状況 (m³)

家畜糞尿搬入量と製品堆肥搬出量				
区 分	八ヶ岳牧場	馬事振興センター	小淵沢町流通組合	合 計
糞尿搬入量	4,594	820	3,704	9,118
堆肥生産量	2,282	376	1,820	4,478
堆肥搬出量	1,865	268	1,881	4,014
販売量	817			
圃場散布量	1,865			

(7) その他の業務

ア. 職員研修等

協会職員の資質の向上を図るため、専門技術研修や全国発表会並びに作業機械免許等取得講習会等に延べ20名を参加させた。[表10]

[表10] 研修内容

	研修期間	日数	研修名	研修内容	人数	研修機関
1	5月23~24日	2日	和牛審査委員会	審査研修	1	全国和牛登録協会
2	6月21日	1日	獣医師研修	先端技術	1	関東しゃくなげ会
3	7月2~4日	3日	中央畜産研修会	放牧	1	(独)家畜改良センター
4	7月5~12日	6日	農大機械研修	トラクター単体	1	県立農業大学校
5	9月3~5日	3日	中央畜産研修会	新任畜産研修	1	(独)家畜改良センター
7	10月7~11日	5日	中央畜産研修会	肉牛生産技術指導者養成	1	(独)家畜改良センター

8	11月11～14日	4日	中央畜産研修会	肉用牛(基礎)	1	(独)家畜改良センター
9	11月8～15日	6日	農大機械研修	トラクターけん引	1	県立農業大学校
10	1月15日	半日	家畜改良研修	ゲノミック育種価	3	家畜人工授精師協会
11	1月24日	半日	産業動物獣医研修	豚コレラ動態、治療新薬	2	NOSAI 山梨
12	2月4日	半日	動物取扱責任者研修	法令、病気	2	県中北保健所
13	2月1日	半日	畜産技術者研修	アニマルウェルフェア	1	(公社)県畜産協会
14	2月10日	半日	超音波画像診断研修	超音波画像診断	1	(公社)畜産技術協会
15	2月14日	1日	AI優良技術発表会	技術発表会、講演会	1	日本家畜人工授精師協会
16	2月25～27日	3日	建設機械作業研修	小型移動式クレーン技能	1	PEP 建機教習センター
17	3月17～18日	2日	建設機械作業研修	車輛系建設機械運転技能	1	PEP 建機教習センター

イ. 黒毛和種基本登録業務

八ヶ岳牧場に預託されている預託牛や牧場に繋養している県有牛、並びに県内農家で飼養されている黒毛和種肉用繁殖雌牛の和牛基本登録を行なうため、登録審査員資格を有する職員を派遣し136頭の登録を行なった。

2) まきば公園管理受託業務

(1) まきば公園の利用状況

4月20日(土)に開園し、11月10日(日)までの開園期間中に231千人[表11]が来園し、来園者の応接対応と878団体に対する研修・案内を行った。また、公園施設の保守管理、植栽・草地の維持管理を行うとともに、ふれあい動物の飼養管理及びめん羊の増殖管理を行った。

[表11] 月別入園者数の状況

(人・台・団体)

月	開園日数	推定入園車両数	推定入園者数	車両/日	入園者/日	予約団体数
4月	10	4,490	11,720	449	1,172	14
5月	27	13,960	38,910	517	1,441	65
6月	26	5,220	20,620	201	793	140
7月	28	7,240	26,350	259	941	169
8月	30	20,140	58,530	671	1,951	154
9月	25	9,750	29,800	390	1,192	123
10月	27	4,980	30,660	184	1,136	155
11月	9	5,000	15,380	556	1,709	58
合計・平均	182	70,780	231,970	389/日	1,275/日	878

(2) 県有めん羊の増殖業務

まきば公園内の動物ふれあい施設において、サフォーク種の飼養管理を行うとともに、子羊23頭を生産し、県内農家等に16頭を売却した。[表12]

[表12] 県有緬羊の飼養状況 (頭)

区分 性別	動物 (成めん羊) 頭数						生産物 (子・育成めん羊) 頭数						合計
	前年度より	生産物区分から替	売却	廃用	死亡	計	生産	動物へ区分替	売却	廃用	死亡	計	
雌	29	11	6		2	32	13	11			2	0	32
雄	14	12	10		3	13	12	12			0	0	13
計	43	23	16		5	45	25	23			2	0	45

(3) 畜産に関するイベントの開催実績

- フェルト教室 (開催回数: 11回 参加人数438名)
- めん羊毛刈り体験実習 (開催回数: 2回 参加人数24名)
- 自然観察会(山菜・きのこ教室) (開催回数: 2回 参加人数39名)
- まきばウォーク (開催回数: 7回 参加人数279名)

3) 死亡牛焼却委託業務

県西部家畜保健衛生所からの業務委託契約に基づき、農家で死亡した月齢96ヶ月齢以上のBSE検査対象牛の焼却を行った。また、県有肉用繁殖牛に牛ヨーネ病の患畜および疑陽性となった育成子牛についての自主淘汰も含め、[表13] とおり行った。

[表13] 月別死亡牛の焼却頭数 (頭)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
焼却頭数	1	2	2	2	11	4	0	1	11	2	0	3	39

3. 附属明細書 (事業報告関係)

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。